バイオマスボイラー屋上から撮影した旭川市内

第❶回「紙」

# 教科書トリビア

教育芸術社の教科書用紙は、音楽科教科書のためだけにオーダーメイドで製造されています。
今回は、多くの教科書の紙を製造している、日本製紙株式会社北海道工場 旭川事業所(以下、旭川事業所)を取材させていただきました。

**日本製紙株式会社北海道工場 旭川事業所**

北海道のほぼ中央に位置する旭川市にあり、南北に約1.4km、東西に約700m、札幌ドーム約20.5個分の広さを有する工場です。

本号のヴァンは、以下の紙を使用しています。

**表紙(P.1,2,35,36)**
教科書の「口絵」の部分で使われる紙(白老(しらおい)事業所製)
**表紙以外(P.3～34)**
教科書の「本文」の部分で使われる紙(旭川事業所製)

教育芸術社と日本製紙株式会社が教科書のために検討を重ねて開発した、文字や楽譜を見るのに適した紙です。また、ティッシュペーパーなどのように一定の方向に破れやすい性質はなく、どの方向から力が加わっても破れにくい、高品質な紙となっています。ぜひ実際の手触りや質感、色などをご確認ください。

## [ 紙のできるまで ]

### ❶ 原料を集める

紙の原料は「木」や「古紙」ですが、旭川事業所で使われる木材はほとんどが北海道産です。北海道のほぼ中央という立地を生かし、道内の各地から原料となる木材を集めています。

### ❷ パルプを作る

紙の原料となる「パルプ」は、木材から「セルロース」と呼ばれる木の繊維を取り出して作られます。主に次の種類があり、これらを紙の用途によって適した割合に配合します。

化学パルプの原料となるチップ

**機械パルプ…** 木材を機械ですりつぶして作るパルプ。不透明度が高く、軽い。印刷に適している。国内に機械パルプを製造するマシンは数か所しかない。

機械パルプを作るマシン。
上階には水に浮かべられた原料の丸太がある

**化学パルプ…** 木材を一定の大きさにカットしたチップに、化学的処理を施して作るパルプ。

**針葉樹パルプ** 繊維が長く、紙の強度はあるが、ざらざらしている。

**広葉樹パルプ**　繊維が短く、紙は滑らかだが、強度が弱い。

**再生パルプ…** 回収された新聞や雑誌などの古紙から作るパルプ。

## ❸ 紙を作る

パルプから紙を作る機械を「抄紙機」といいます。旭川事業所の抄紙機は、全長約100m、高さ約10mのたいへん大きなものです。パルプはこの中を時速約60kmで進み、次の工程を経て紙になります。

抄紙機の全景、向かって右から左に進んでいく（この写真は同工場白老事業所のもの）

水を含んだパルプをワイヤーと呼ばれるシートに広げる。シートは左に向かって時速約60kmの速さで進む

①**広げる：**水分を含んだパルプを、幅6mほどのプラスチック製のシート（網）に均一な厚さで広げる。

②**脱水する：**シート状になったパルプに上下から圧力をかけ、水分を搾り取る。

③**乾燥する：**シートを熱したロールに押し付けることで、水分を蒸発させる。

ここまでで「紙」の状態になります。以下はより品質を高めるための工程です。

抄紙機の最後の工程。6m幅の状態で紙が巻き取られる

④**化粧する：**紙の両面に塗料を塗り、表面を滑らかにする。

⑤**磨く：**紙の両面に圧力をかけ、均一な厚さにする。

⑥**検査する：**紙の重さや厚さ、水分の量、塗料のムラなどを計測し、小さな傷や異物がないか検査する。

⑦**巻き取る：**完成した紙を巻き取る。直径2mまで巻き取られた紙は、幅6m、長さは50kmにもなる。

抄紙機で作られた紙は、最終的に注文どおりの大きさにカットして、製紙工場から出荷されます。

紙をカットし筒状や平判にして完成。これが梱包されて出荷される

### [ 環境を守る取り組み ]

**間伐材の活用**

原料となる木には、北海道の間伐材が多く使われています。間伐をしないと森林に光が当たらないため、地面の植物が育たないなどの問題が発生します。適切な間伐を行うことは、健全な森林を育てるために大切なことです。間伐材の他、製材工場で残った端材などを有効活用し、パルプが作られています。

**水の循環利用**

1tの紙を作るためには、100tもの水が必要です。旭川事業所では、近くを流れる石狩川、牛朱別川から取水し使用していますが、使われた水は循環して再び利用したり、魚が住めるぐらいにまで浄化して川に戻したりするなど、環境への影響に配慮しています。

**電力はリサイクル原料から**

旭川事業所で使われる電力は、90%以上が工場内にある「バイオマスボイラー」で作られます。その原料には、木くずや廃タイヤの他、木材から化学パルプを作るときに発生する「黒液」と呼ばれるたいへん燃えやすい物質が使われています。また、ボイラーで燃えたあとにできる灰は、ほぼ全量が「再生骨材」として加工され、北海道で道路を作る際に使われています。木材から紙にならなかった部分も無駄にせず、北海道内で全てがリサイクルされています。

＼お話を伺いました／

旭川事業所長の中山晋一さん

**旭川事業所では、どんなことに注意していますか？**

→ 間伐材をうまく利用して北海道の森林を守ることが、我々の大きな使命です。弊社の紙を使っていただくことが、北海道の森林を守ることにつながります。また、旭川事業所は住宅地にとても近い場所にあるので、近隣の皆様に環境面でご迷惑をおかけしないよう、細心の注意を払っています。

**紙を作るうえで、難しいことは何ですか？**

→ 欠陥がないかどうかを特に厳しく管理しています。印刷物の信頼に関わるような欠陥があると大問題になります。また、最近では教科書が重くなって子どもが苦労しているという話を耳にします。紙を軽くすることと丈夫にすることは相反することでたいへん難しいのですが、紙の質を落とさずに軽量化することに取り組んでいます。

次号は第２回「印刷」です。

# 授業者に訊く——1

導入「くいしんぼうドレミのゲーム」

**今回の「授業者に訊く」は、小学校と中学校の授業です。最初にご紹介するのは、名古屋市立当知（とうち）小学校の１年生。３人ずつのグループになって、『きらきらぼし』冒頭の旋律（呼びかけ）の続き（こたえ）を考える活動です。子どもたち一人一人が楽しそうに取り組んでいる姿が印象的でした。対談では、光川知里先生が音楽づくりの指導で注意しているポイントや工夫について、お話を伺いました。**

**授業者：光川知里**（名古屋市立当知小学校）　**聞き手：石上則子**（元東京学芸大学准教授）

## 本時の授業の位置付け

本時は、1年生の『きらきらぼし』をモチーフにした音楽づくりの第２時です。「呼びかけ」と「こたえ」の仕組みを生かし、どのように表現するか思いや意図をもつことが目標です。前時では、ゲーム形式で3～5音の旋律づくりをしました。本時では、『きらきらぼし』の「ドドソソララソ𝄽」の旋律を「呼びかけ」とし、それに対する「こたえ」の部分になる7音の旋律をつくる活動を行います。

水野 聡 先生
名古屋市立当知小学校 校長

## 授業の流れ

| | 学習の内容、学習活動 | 指導上の留意点 |
|---|---|---|
| **導入** | 1.「くいしんぼうドレミのゲーム」を行う。<br>2.『きらきらぼし』を歌う。 | • 『ドレミのうた』の替え歌を歌ってからゲームを行う。<br>• 手を上下に動かして音の高低を表しながら階名唱したり、楽曲の気分を感じながら歌ったりできるようにする。 |
| **展開** | 3.旋律づくりをする。<br>○本時の学習課題をつかむ。 | • 既習曲を提示し、「呼びかけ」と「こたえ」の仕組みを想起させる。<br>• 『きらきらぼし』の「ドドソソララソ𝄽」の旋律を「呼びかけ」とし、それに対する「こたえ」となるよう、「ド・レ・ミ・ファ・ソ」の5音から7つ選択し、その7つの音をつなげてグループで旋律をつくることを伝える。 |
| | ○7つの音のつなげ方を試し、旋律をつくる。 | • 短冊五線譜とマグネットを準備し、音のつなげ方を試しやすくする。<br>• ド～ソの短冊を2枚ずつ配付するが、同じ音を3つ以上使用したい場合は、教師に伝えるようにする。ただし、同じ音が5つ以上にならないよう助言する。<br>• 積極的に試そうとしないグループには、「この部分を変えてみたらどうなるかな」と提案するなどして支援する。 |
| | ○発表する旋律を決めてグループで練習する。 | • 教育用オルガンに録音した「呼びかけ」部分の旋律を流しながら、それに続けて拍にのって演奏するよう助言する。難しい場合はテンポを落とすようにする。<br>• グループで合わせて演奏できるよう、机間指導をする。 |
| | ○グループごとにつくった旋律を発表する。 | • 教師が「呼びかけ」部分を演奏し、グループごとにつくった旋律を発表できるようにする。<br>• 余裕があれば、「呼びかけ→Aグループ（こたえ）→呼びかけ→Bグループ（こたえ）…」のようにリレー奏できるとよい。 |
| **まとめ** | 4.本時のまとめをする。 | • 本時を振り返り、音のつなげ方を工夫して旋律をつくることができたかを確認する。<br>• 次時は、一人一人が1旋律をつくること、グロッケンを使って音の出し方を工夫して音楽をつくることを伝える。 |

# 音楽づくりを通して子どもたちの思いや意図を明確に

## 導入は音遊びで楽しく

**石上：** 子どもたちが生き生きと活動していて、楽しみながら授業に取り組んでいるのが伝わってきました。

**光川：** 1年生の中でもいちばん活発なクラスですが、今日は取材でお客様がお見えだったので、少し静かでした。ふだんはもっと元気で、今日は抑えていたほうです(笑)。

**石上：** そうだったのですね(笑)。1年生の授業では、どのようなことに気を付けて指導されていますか？

**光川：**「活動は楽しく」をいちばん大切にしていますが、音高やリズムの理解といった基本的なことを押さえるように心掛けています。その中で、楽譜に慣れ親しむことも意識しています。

○いしがみ・のりこ
東京都の小学校にて、音楽科教諭として長年音楽科教育に取り組む傍ら、特別活動や総合的な学習の時間などにも深く関わる。東京都小学校音楽教育研究会（都小音研）研究部長や副会長などを歴任。音楽づくりを研究課題とし、文部科学省、東京都立教育研究所（現東京都教職員研修センター）の講座や研究、ＮＨＫの教育音楽番組等にも協力する。退職後は、東京学芸大学の准教授として後進の指導、全国の研究会で講演・ワークショップ等を行う。現在、日本女子大学、東京藝術大学 非常勤講師

**石上：** 今日の授業は、導入「くいしんぼうドレミのゲーム」から始まりました。先生がつくった『ドレミのうた』の替え歌で、ソーセージやラーメンなど子どもの好きな食べ物の名前を入れて歌うことにより、子どもたちが音を身近に感じられる内容でしたね。

**光川：** 子どもたちが表現することに対して自信をもてるよう、必ず最初にゲームやリズム遊びを行い、1人で人前に立つ活動を取り入れています。

**石上：** 小さい頃は人前に立つことを喜びますけれど、大きくなると苦手になってくる子どもが多いです。今日のような活動を続けていくことにより、学年が上がっても1人で人前に立つことに抵抗をもたなくなりますので、大切な学習だと思いました。ゲームのあとには、『きらきらぼし』を歌いながら手を上下に動かして、音の高低を表す活動もありました。

**光川：** 楽譜を目で見るだけでは音高感が身に付かないので、手で音の高さを表すことによって、頭で考えるのではなく体を通して歌えるようにしていきたいなと思っています。

**石上：** 音は目に見えませんから、子どもは認識するのが難しいと思います。ですから、体を使うことは重要です。

**光川：** 限られた音楽の授業時数の中で、少しずつでも音高感を身に付けるための学習を取り入れるようにしています。

**石上：** 楽譜に書いてある音符が読めるだけではなく、音の高さを感覚として認識していることが重要ですものね。音高が分かれば、楽譜上の音符がその感覚と一致します。すると、楽譜を読むことにもつながっていくでしょう。音高の学習には『きらきらぼし』の他に、3年生の『春の小川』も扱いやすいと思います。4分音符だけでできているので、子どもたちが音の高さに親しみやすい教材です。

○みつかわ・ちさと
名古屋市立当知小学校 教諭

## 音楽づくりで大切なのは「積み重ね」

**石上：** 今日の音楽づくりは、『きらきらぼし』の一部分を用いた学習でした。「呼びかけ」の旋律「ドドソソララソ♪」に対して、子どもたちが「こたえ」の旋律を考える音楽づくりですね。「こたえ」となる7つの音を考えて並べ、実際に鍵盤ハーモニカで演奏するというものです。教室に入ったとき、

手を上げ下げし、音の高低を表しながら『きらきらぼし』を歌う

階名の書かれた短冊五線譜を並べて、
音符の「たま」を表すマグネットを置いていく

並んだ譜面台の上には♪音記号の五線があり、これがどうなるのかなとワクワクしました。この上に、階名の書かれた短冊状の五線紙を並べて、音符の「たま」を表すマグネットを置いていくと、楽譜が出来上がるのですね。短冊に書かれた「ドレミ」とマグネットの「たま」によって、子どもが自然に音の高さをイメージできるようになっていて、おもしろい教具だと思います。

**光川：** 出来上がった楽譜を見て友達の表現のよさに気付くことができますし、自分でおかしいと思ったところがあれば、短冊とマグネットを置き替えるだけで違う音にすることが簡単にできます。こうした活動の中で、読譜力を身に付けてほしいと思っています。

**石上：** 旋律に使えるのは5つの音(ド・レ・ミ・ファ・ソ)でした。これらの音を、7つ並べて旋律をつくる活動でしたが、その前に同じような活動はされていましたか？

**光川：** はい。子どもたちにとって、いきなりたくさんの音を扱うことは難しいので、ゲームにして続けてきました。私が「ド・ド・ド」と言って、子どもたちが「ド・ド・ド」とこたえるといったことから始め、3音、5音の旋律づくりをしました。できる限り時間を取って、段階的にゆっくり進めるようにしています。

**石上：** 即興的な音遊びとして、細かく指導されているのですね。音楽づくりの教材は、教科書にいろいろな形で載っていますけれど、教科書に入る前に教師がしておくべきこともあります。そのようなことを先生は常時活動や音遊びとして帯(おび)的に入れてこられたので、授業にもスムーズに入ることができたのだと感じます。本来、5つの音を使うのも1年生ではとても高度なことです。これまでの積み重ねが実を結んだのでしょう。子どもたちの取り組みがとても早くて、みんなよくできるなと思いました。先生は子どもたちをどのように見取っていますか？

**光川：** 「旋律の終わりはドがいい」と気付く子どももいますし、グループの中で意見が割れることもありますが、「あなたの表現のよさをお友達に認めてもらって、お友達のよさも認められるといいね」と声を掛け、それぞれのやり方でよいことにしています。その結果、運指が難しくなる場合もありますが、それでも自分でつくったメロディーを弾きたい子どもには、「1本の指で弾いてもいいよ」と伝えます。音楽づくりでは、技能(運指)にこだわりすぎないようにしています。

**石上：** ファやレなど、子どもたちがつくった旋律はいろいろな音で終わっていましたが、それについてはいかがでしょうか？

**光川：** いろいろな音で終わっていてもいいかな、と思います。もちろん「この音で終わってほしい」という願いはありますが、最初から「この音で終わりなさい」「つながるようにしなさい」とは言わないようにしています。つくる過程で子どもたちが気付けるような助言や、うまくつくれた子を紹介して、「どんな音で終わっているかな？」などと問いかけながら授業を進めたいと考えています。

**石上：** 今回はまず、旋律をつくることができたという点を認めるという段階だったのですね。電子オルガンを活用されていましたが、いつも使っていますか？

**光川：** 電子オルガンは録音機能が付いており、机間指導をするときに、伴奏を自動的に流すことができて非常に便利なので活用しています。速さも変えられますし。

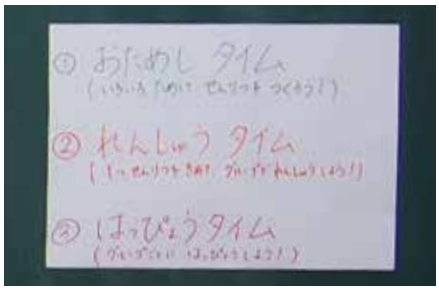
**石上：** これもICT活用の一つだと私は考えています。電子オルガンでは、「呼びかけ」である「ドドソソララソ♪」というメロディーが鳴ったあと、8拍分リズムのみが鳴っていました。これが繰り返し流れており、リズムのみの部分で、子どもたちがそれぞれつくった「こたえ」の旋律を演奏する。「呼びかけ」に続けて、拍にのって演奏するのが最初は難しそうでしたが、やっていくうちにどんどん慣れてきて、音が途中で切れると「先生、もっと流してください」と子どもたちが発言するなど、目的に向かって意欲的に話し合いながらメロディーをつくっていました。「主体的・対話的で深い学び」ができているのだと思いましたが、意識はされていますか？

**光川：** はい。「音楽と対話ができているか」「友達と対話ができているか」と、いつも考えながら授業をしています。

**石上：** グループ活動をするのに、3人はちょうどよい人数だと感じました。

**光川：** いきなり1人で取り組ませると、困ってしまってできない子がいるのですが、今日のように3人だと安心してできますし、友達の考えを聞き、共感したり新しい発見をしたりして、次に生かすことができます。安心感がないと音楽が嫌いになってしまうと思うんです。

**石上：** 見通しがないと子どもたちも不安ですからね。今日は、練習の仕方を学ぶ「おためしタイム」があり、「れんしゅうタイム」「はっぴょうタイム」といった時間の流れも明確にされていました。これはとても重要なことです。



黒板に貼り出された掲示物。「①おためしタイム、②れんしゅうタイム、③はっぴょうタイム」という時間の区切りが示されている

## 評価は子どもとのやり取りの中で

**石上：** 本時の評価は「思いや意図をもっているか」が規準となりますが、いかがでしたか？

**光川：** 「やっぱりここはドがいいよ」などと、みんな何かしら発言したり考えたりしていたので、思いや意図をもって取り組めたと思います。

**石上：** 音楽づくりでいちばん難しいのは評価だと言われることがあります。先生がされていたように、各グループを回りながら、子どもの中に入って見取っていくことは大事です。

**光川：** 活動を見取ることはとても重要だと考えています。悩みながら試している子に声を掛けることはもちろんですが、「できた」と言っている子に「ここはどうしてこうなったの？」「これを変えてみたらどうなるかな？」と質問するなど、やり取りの中で評価をしていくことが大切だと思います。

**石上：** 次の授業では、今日の活動から子どもたちの思いを引き出していくのでしょうか？

**光川：** その予定です。各グループでつくったものを拡大提示装置で映して、「あのグループはこんなふうにつくったんだ」「どうしてここはドにしたのだろう？」などということを意識させながら発表し合います。プリントを用意し、記譜のことにも少しだけ触れることができたらいいなと思います。

**石上：** そうすると「終わる感じ」「つながる感じ」が学べますから、3・4年生での学習にもつながっていきますね。次時は『きらきらぼし』の真ん中の部分「ソソファファミミレ」に当たる旋律をつくるそうですが、旋律の反復についてはどのように扱いますか？

**光川：** 繰り返しになっていることに気付ける子どもは繰り返してもいいですし、あえて違う旋律でもいいと思っています。

**石上：** とてもおもしろいですね。次の授業で、子どもたちの思いや意図が見えてくるでしょう。

**光川：** はい、ワクワクしています。学習を積み重ねていくことで、子どもたちの思いや意図が少しずつ明確になってきている気がします。「どんな音でもいい」ではなく、子どもたちが出したい音にこだわっていけるように進めたいと思います。次回はグロッケンを使い、音色を工夫していきます。毛糸やゴム、柔らかいものや硬いものなど、子どもたちが自由に選べるように、マレットをたくさん用意する予定です。

**石上：** どんな音楽になるか楽しみですね。

**光川：** 音楽づくりでは、自分がどう表現したいのかという思いが明確になります。それは、子どもたちがこれから音楽を学んでいくうえでの礎になると考えています。1年生だとお遊びのように見えるかもしれませんが、その中には大事なことがたくさん詰まっていると思うのです。

**石上：** 友達どうしで感性を共有し合うことにより、「なるほど」と感じつつ、自分自身のものをつくっていく喜びが生まれます。その喜びが歌唱や器楽の学習にもつながっていくのです。音楽づくりはベースの学習になっていくと私も思います。

## 子どもたちの成長のために

**石上：** 小学校1年生においては、スタートカリキュラムに取り組まなくてはなりませんね。

**光川：** 幼稚園で楽しかったことが、小学校に上がってつまらなくなったということのないように注意しています。小学校でも「楽しい活動」は大切ですが、それだけではいけません。必ず「学び」も必要です。この2つをポイントに、幼稚園の頃から培ってきた“体で感じること”を、うまく学びの力と結び付けてあげることが私たち教師の役

子どもたちの中に入り声を掛ける光川先生

出来上がった旋律をグループごとに発表する

割だと思います。

**石上：** 1年生にとって小学校は新鮮な場所であり、子どもたちも「ちゃんとやらなくちゃいけない」という思いをもっていますから、それらがうまく噛み合うといいですよね。今日の授業は、2年生に向かって成長していることを感じさせる内容でした。1年生から6年生までの音楽科の授業において、いちばん大切にしていることは何ですか？

**光川：** 学年が上がっていくことに対しての「つながり」です。音楽は算数などと同じく積み上げの教科であり、1年生で学んだことは、必ず2年生の学習につながります。学年のつながり、そして小学校を卒業して中学3年生まで、さらにその先の生涯にわたって音楽を愛好できるような未来を見据えて、現在の授業を行っています。この地域では、音楽を学ぶ機会が学校の授業だけという子どもも少なくないので、特に意識していますね。

**石上：** そのような環境では、音楽の授業は特に大事ですね。

**光川：** 私自身も試行錯誤しているのですが、校内や他校の先生がたに、今日のような教材や教具、授業の進め方を紹介しています。みんな、授業の悩みは尽きませんから、発信したり共有したりすることが大切かなと思います。

**石上：** 経験豊かな音楽の先生が積極的に提案することは、これから重要になっていくかもしれませんね。新学習指導要領には「知識及び技能」「思考力，判断力，表現力等」「学びに向かう力，人間性等」という三つの柱が示されていますが、目指す資質・能力を育成するためには、どのようなことが必要だと考えていらっしゃいますか？

**光川：** 何か1つだけの力を伸ばしてもあまり意味がなく、うまく歌を歌えたとしても、他の力がきちんと育っていないといけません。教師が丁寧に教材研究や準備を行うことが、子どもたちの成長につながると思っています。数分の常時活動でも、積み重ねれば総合的な力の底上げにつながりますので、少しずつ求められている力を身に付けてほしいと考えています。

**石上：** 教材づくりは教師の仕事の一つですが、たいへん時間がかかることです。今日、光川先生が子どもの実態に合わせて教材・教具をつくって授業を行う姿は、若い先生がたにもぜひ見ていただきたいと思いました。

## 人と音楽と学び

**石上：** 入学した頃と比べて、子どもたちにはどのような成長がみられますか？

**光川：** 最初の頃はただ大きな声で歌っていましたが、曲の雰囲気に合わせた発声を意識できるようになりました。それから「ド」の音の位置、高さなどの感覚もわずかではありますが身に付いてきたと感じます。読譜はゴールではありませんが、楽譜を読むことは中・高学年での活動にも必要ですし、大人なってからも意味があることだと思っています。

**石上：** 音楽づくりは楽譜がなくてもできますが、先生の授業では五線を使用して読譜も行うため、子どもの学びが深まりますね。そうして今求められている「主体的・対話的で深い学び」につながっていくのだと思いました。最終的な発表の場を、保護者のかたがたに参観していただくような場はありますか？

**光川：** これまで、授業参観で保護者のかたに見ていただいたり、他のクラスと発表し合って、互いの演奏を聴き合ったりしてきました。聴いてもらうと、子どもたちのやる気も上がりますね。

**石上：** そのように、低学年のときからみんなに認めてもらう機会があることは大切です。これからの日本で、音楽科の授業はどうあるべきだと思われますか？

**光川：** これからもずっと「音楽科はほんとうに必要なのか？」と言われ続けることでしょう。けれども、私たちの生活に音楽がないことは考えられません。テレビをつけても、街の中にいても、音楽はいつでも流れています。音楽と人間は切っても切り離せませんから、それをきちんと学びとして培ったうえで、音楽とともに人生を歩んでいくことが理想です。音楽は言語と同じぐらい世界とつながるツールだと思いますので、それを身に付けた子どもは世界にも通用する人材になると信じています。

**石上：** 音楽の学習と生活や社会とを結び付けられる資質・能力が求められていますよね。今日の1年生を見ていると、みんな音楽が大好きで、この学びがこれからの未来につながっていくのだと思いました。ありがとうございました。

石上則子先生と光川知里先生

# 授業者に訊く――2

授業の導入で校歌を歌う

**２校目は、滋賀県の守山市立守山南中学校を訪ねました。守山市は京都や大阪への通勤圏として人口が大きく増えている地域であり、守山南中学校では1,000人を超える生徒が学んでいます。参観した１年生の授業は、「謡の特徴を生かし、表現しよう」という題材の『ソーラン節』の学習です。繰り返し歌いながら民謡の特徴に迫ろうとする生徒たちの様子が印象的でした。**

**授業者：福井洋枝**（守山市立守山南中学校）　**聞き手：長谷川 慎**（静岡大学）

## 本時の授業の位置付け

日本の民謡や長唄、能の謡は「鑑賞教材」として学習することが多く、「歌唱教材」として扱われることは多くありませんでした。しかし、今まで学習してきた歌唱と、姿勢や発声、言葉による節回しについて類似点が多く、生徒の実態に合わせた教材を選ぶことにより、曲種に応じた発声や言葉の特性を生かした表現を学ぶことができるのではないかと考えます。１年生では民謡を歌って日本独自の歌唱の特徴を知覚・感受し、今後、長唄や能の謡を学ぶことで、さらに日本の伝統的な歌唱の魅力を感じ取れるようにします。

藤村 厚 先生
守山市立守山南中学校 校長

## 授業の流れ

| | 学習の内容、学習活動 | 指導上の留意点 |
|---|---|---|
| 導入 | 1.既習曲を合唱する。 | • 合唱にふさわしい声の出し方や口の開け方を意識するよう、助言する。 |
| 展開 | 2.本時の目標を知る。<br>『ソーラン節』の歌い方を考え、工夫しながらグループで歌うことができる | |
| | 3.『ソーラン節』の特徴を確認し、前時までに学習したことを生かして歌う。<br>4.どのように歌えば民謡らしくなるのかを考える。<br>• 声の特質を知覚・感受する。<br>• 声の出し方や息の使い方を意識して、範唱CDから聴き取る。<br>• それぞれが感じ取った歌い方を伝え合い、歌い方を図で表したり、言葉で表したりする。<br>• グループで意見をまとめる。<br>• それぞれ何回か歌って確認する。 | • 旋律の流れや歌い方（発音、節回しなど）を意識して歌わせる。<br>• 「ソーラン節」の声の音色の特徴に気付かせ、より民謡らしい表現をするためには、どのように歌ったらよいかについて、思いや意図をもたせる。<br>**評価の場面［II］【音楽表現の創意工夫】**<br>① 民謡の抑揚や節回し（コブシ）、発声を知覚・感受し、民謡の特性を生かしながら、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。<br>（評価Cの生徒への手だて）<br>民謡の節回し（コブシ）、発声や言葉の発音、身体の使い方などについて、具体的に気を付けるべきことを考えさせる。 |
| | 5.創意工夫したことを生かし、『ソーラン節』を歌う。<br>• 考えた内容をもとに、それを生かして歌う。<br>6.ワークシートに本時の振り返りをする。 | • 本時の振り返りと次時の活動を伝える |

# 『ソーラン節』の歌唱を通して、生徒が姿勢や発声を学び合う

## CDによる「お手本」を活用する

**長谷川：**「民謡の特徴を生かして表現しよう」という題材でした。1年生の表現活動で民謡を取り上げるのは、その先を見据えてのことでしょうか？

**福井：**はい。2年生では必ず長唄を唄います。日本の伝統的な歌唱の扱いは難しいというイメージがあり、生徒たちが見て聴いて感得できる教材でなければ「ただ歌って終わり」になってしまいます。コブシ、抑揚、発音などの扱いを考慮して、1年生の教材は『ソーラン節』にしています。この題材の最後では、聴き比べの観点から『谷茶前』と『刈り干し切り歌』や地元である滋賀県の『江州音頭』を鑑賞することにもこだわっています。

○はせがわ・まこと

静岡大学教育学部准教授。地歌箏曲演奏家。東京藝術大学音楽学部邦楽科卒業。同大学院音楽教育専攻修了。教科教育としての日本音楽指導、地歌箏曲の楽器変遷を研究。中学校音楽科教科書（教育芸術社）を始めとして執筆多数。2014年NHK邦楽オーディション合格。日本三曲協会、生田流協会、箏曲宮城会会員。生田流箏曲宮城社宗家直門。静岡大学、東京藝術大学他多くの大学で箏・三味線の実技指導及び音楽科教育法を担当。

**長谷川：**『ソーラン節』は生徒にとって、なじみはありますか？

**福井：**最初に題名を知っているかと尋ねると「YOSAKOIソーラン」としての反響が返ってきました。踊りのリズムと『ソーラン節』が違うことや、拍節感のことを教えたあとに歌を聴かせると、それなりの反応がありました。

**長谷川：**今日の授業では、範唱のCDを繰り返し活用されていました。

**福井：**いろいろな音源の中から、男声と女声がそれぞれの声の高さで収録されているCDを選びました。男子は変声期の関係で、女声の音域で歌うこともあります。

**長谷川：**今日は男声と女声を繰り返し再生していましたが、生徒たちは自分に合ったほうの高さで歌っていたんですね。男声は低くて少しじみな印象でしたが、女声ははつらつとした感じで歌えていました。

**福井：**CDを聴かせても、生徒がまねをできなければ無意味ですが、このCDはコブシなどがとても聴き取りやすく、生徒たちも歌いやすいようです。

**長谷川：**CDの音源に合わせて歌いながらコブシを見つける活動を通して、何人かの生徒は実際に喉を使ってコブシを表現していました。きっと生徒の中でもコブシを実感できたのだと思うので、「これが民謡の特徴なんだな」と自信をもってもらえたらいいですね。

**福井：**研究発表のための授業や、伝統的な歌唱といわれているから歌わなければならないというのではなく、もっと身近なものと感じて実際に歌い、そのよさを感得してほしいと強く思います。誰もができる授業を実践していますので、どの作品を教材にするか、どういう音源を使って授業するのかが深く関わってきますし、譲れないところでもあります。

**長谷川：**日本の音楽というと、どちらかといえば苦手意識をもっている先生が多いと思うのですが、今日の授業は流れがあって自然体なところが印象的でした。生徒たちは『ソーラン節』を実に楽しそうに歌っていましたし、授業の最初と最後では格段に違いましたね。

**福井：**次はもっとよくしていこう、ときちんと伝えて指導していくことを心がけています。日本の音楽が教材であってもふだんの合唱とのつながりはあると感じます。

**長谷川：**学びが区切られずに、生かされながらつながっていくことを大切にしているのですね。

CDの模範演奏を聴き、声の出し方の特徴について考える

両手で楽譜を持ち、正しい姿勢を意識しながら歌う

○ふくい・ひろえ
守山市立守山南中学校 教諭

## 姿勢と発声について

**長谷川：** 今日の授業でまず気付いたのは姿勢のことです。生徒たちは椅子に腰掛けていましたが、両手で楽譜を持ち、姿勢を正して歌っていました。日頃から意識して指導していらっしゃいますか？

**福井：** いつも合唱のときは立って歌います。ここでは座って歌うときの姿勢を感得させたいという思いもあり、座って歌う学習に取り組みました。前時では、生徒たちから「抑揚を付けるにはこんな姿勢がいい」といった提案も出ました。

**長谷川：** 椅子の前のほうにちょこんと腰掛けて、足を床に付けて座っていましたが、あれはどういう理由からですか？

**福井：** 生徒たちが自然とこの姿勢で歌い始めたんです。重心を前に置くとよいということをこれまでから学習しています。

**長谷川：** そうなんですね。

**福井：** 立って歌うときは、足の裏を意識すると思います。でも座って歌うときは両足とお尻との3か所に意識が分散し、だらっとしがちです。今日も「姿勢、姿勢」と言われて「あ、そうか」と直す生徒がいました。姿勢が整わないと息も流れません。難しいことですが。

**長谷川：** 日本の音楽では姿勢がとても大事です。生徒たち自身が「こういう姿勢がいい」と気付けるのはすばらしいですね。あと、もう一つ気付いたのは口の形のことです。授業の始めに歌った校歌のときに感じましたが、口の開け方についてもふだんから指導されていますか？

**福井：** 口の開け方はもちろん、1年生のときから特に言い続けているのは息のことです。ソプラノリコーダーで校歌を演奏し、低い音と高い音で息のスピードを変えるように指導すると、音色の変化が生徒にも分かります。さらにアルトリコーダーも使い、低い音はゆっくりと温かい息で吹くよう指導するんです。サミングのときはどうするのかなど、息のスピードを変化させる指導を徹底的にして、息について体感させています。

**長谷川：** リコーダーでの器楽指導が、歌唱の活動にもつながっているんですね。

**福井：** 例えば『夏の思い出』も『琵琶湖周航の歌』とセットで指導しました。曲の形式が似ていて、3段目に変化があるんです。最初から2段目までどのように歌うかを創意工夫させたのですが、「低いところは温かい息で、音が高くなったら息のスピードを速くして冷たい息で歌う」という方法が生徒たちから自然と出てくるようになりました。

## 指導の3つのポイント

**長谷川：** 指導案に「民謡らしい声で」「長唄らしい声で」と書かれていても、なかなか答えを見つけられないことがあります。今日の先生の授業を拝見して、「口の開け方」「息のスピード」「姿勢」の3つがキーワードかと思いましたが、いかがでしょうか？

**福井：** 授業では基本的に生徒たちの気付きを大切にしていますので、その3つも生徒から出てきた意見を反映したものです。次時では、私のほうから姿勢や発声について、もう少し踏み込んで指導したいと考えています。

**長谷川：** 具体的にどういった内容でしょうか？

**福井：** 姿勢をもう少し安定させたいですね。腰がしっかり安定しないと声がのびていかないと感じます。それから声の張り方でしょうか。民謡や日本の伝統的な歌唱にある「声を張る」という感覚を丁寧に指導したいと思います。

**長谷川：** なるほど。腰の位置を意識するのは、民謡や日本の伝統的な歌唱で「声を張る」ことにつながる大切なポイントですね。

**福井：**生徒は今まで学習してきた中で覚えた言葉を使ってワークシートに記入しますが、今日見ていたらコブシのことを“ビブラート”と書いている生徒がいました。次時ではここをもう一度押さえなくてはいけないと感じました。「産字（うみじ）」についても簡単な説明で済ませてしまいがちですが、２年生で学ぶ長唄のことを考えると、もう少し踏み込んで触れてもいいなと感じています。

## グループ活動で歌うことを学び合う

**長谷川：**『ソーラン節』は数人のグループに分かれて学習しましたが、どういった点に留意されていますか？

**福井：**意見を言える生徒と言えない生徒がいるので、大人数にしないようにしています。今日はグループの中で歌って完結するという内容でした。発表させたいとも思いますが、歌う時間が減ってしまうのも困ります。

**長谷川：**確かにグループごとに発表する場面はありませんでした。

**福井：**グループ活動に入る前に、私は生徒たちがそれぞれ自分で考える時間を必ず取りたいんです。まずは自分と向き合い、次に周りの友達とつながっていく。今日は発表させずに徹底して歌うという流れを考えました。

**長谷川：**そのおかげで生徒は何回も歌っていましたね。

**福井：**グループだけでも５回以上は歌ったのではないでしょうか。今日も３人のグループが「こういう歌い方をすると、コブシの感じが出るんじゃないかな」「じゃあやってみる」と、生徒どうしで意見を言い合って練習していました。こうした気付きはグループ活動のよさですね。

**長谷川：**歌っては確認して気付き、またそれを生かして歌う。こうした展開がとてもよかったです。難しいと思っている生徒は、「ここはこうすればよい」と出のタイミングなどが分かると、自信をもって歌えます。

**福井：**今日グループ内で出た内容は、次時で貼り出して共有しようと思います。生徒からの内容と、私が譲れないと思っている指導ポイントをそれぞれ合わせて確認し、発表させたいと思います。

グループ活動。意見を交わしながら練習する

## 充実した歌唱指導と生徒による自己評価

**長谷川：**ところで、授業の導入で校歌を歌っていましたが、「あ」「お」「う」の歌い方の指導に力が入っていました。

**福井：**「お」の歌い方は１年生の間に身に付けてほしいと思い、かなり徹底的に指導しています。「あおい」など、歌詞に出てくることが多いんです。関西のノリでいくと「あお」が「あほ」に聞こえるんですよね（笑）。「あほにならんといて！」といつも言っています。「お」は口を開けるときに息をどうするかがポイントです。息のスピードを意識しないと、「お」に聞こえません。

**長谷川：**息のことはブレスだけを扱いがちですが、スピードを意識させているというのは勉強になりました。『ソーラン節』の指導にもそうした視点が生かされていて、福井先生がふだんからいかに充実した歌唱指導をされているのかが実感できました。生徒たち皆が先生をしっかり見て歌っているのもすばらしかったです。常時活動の現れですね。

**福井：**生徒も私に見られていることを意識しています。私も生徒たちをしっかり見て、ピアノを弾くときもがんばって手元を見ないようにしています。常に見ていくことが生徒の変化を発見することにもつながります。

**長谷川：**授業の最後には、振り返りの時間がありました。生徒たちが自分自身で今日どこまで達したかをABCで記録していました。

**福井：**今日学んだこと、今日できるようになったこと、今日自分で気が付いたことを振り返らせています。生徒たちの１回の

生徒の表情を見ながらピアノを弾く福井先生

授業ごとの成長の記録にもなります。

**長谷川：** Bを付けた生徒は、「もう少し大きな声で歌いたかった」など、自分の苦手なところを確認することで、次の学習につながりますね。

**福井：** Cを付ける生徒がいないように心がけています。前回自分でCを付けた生徒に「ここの部分はできていたよ」と伝えると、横にいた生徒が「先生、よう見てるなぁ」と言っていました。「あ、この先生見てくれてるんや」ということが生徒に伝わるといいなと思っています。授業ではじっとしないで動き回り、生徒一人一人を見ることを心がけています。

**長谷川：** 生徒が活動しているとき福井先生は教室中を動いていらっしゃいました。そして「ここは、こう歌ったらいいんじゃないの」とお手本を示すなど、細かな指導が印象的でした。

## 3年間を通したワークシート

**長谷川：** 振り返りのワークシートについてですが、両面になっていて文字でしっかり埋め尽くされていました。生徒たちも書き慣れているようでした。やはり言語活動の充実という点を意識されているのでしょうか？

**福井：** はい、授業ごとに必ず1枚書かせていて、1年生の1－1から始まり、3年生の3－35まで全てがファイルされることになります。3年間ためて振り返ったときに、自分はこれだけできることが増えたという学びのあしあとが実感できますし、評価の参考にもしています。

**長谷川：** 授業の最初にワークシートを返すとき、一人一人に手渡していましたね。どういった意図がありますか？

**福井：** 授業の前に配っておいたり、クラスの箱に入れて生徒に戻したりすることは絶対にしません。1枚1枚きちんと手渡して、生徒の表情を見ながら「今日はちょっと元気がないな」「体調がよくないのかな」などを、必ず確認しています。

**長谷川：** そこに福井先生の個を大切にする指導が現れていると思います。ワークシートの内容を隣どうしで交換して発表する場面もありました。

**福井：** 自分の意見を発表するよりも、友達が自分の意見を伝えるほうがより緊張感が生まれますし、周りのノリもよくなります。

## 生徒に聴かせる音源へのこだわり

**長谷川：** まだまだ指導に抵抗感をもつ人の多い日本の音楽ですが、福井先生は「コブシ」など用語の使い方にしても歌うポイントにしても、ほんとうによくご存じでした。

**福井：** 特に習ったことはありませんが、地域で民謡を歌っていらっしゃるかたの演奏を聴きに行ったり、長唄の講習を受けたりしたことはあります。私は専門家ではないので、教えるときはそのよさを伝えることしかできないと思っています。日本で伝わってきたことを別の世界のものと敬遠してしまうのではなく、こうすれば自分にもできるかな、歌えるかなという部分を大切にしていきたいですね。そのために、どのような曲を教材に使うか、どの音源を使うかということにはとてもこだわります。

**長谷川：** そこなんですよね。

**福井：** 日本の音楽に限らず、『魔王』であってもいろいろな音源を聴き比べて、誰の演奏が生徒たちにふさわしいのだろうかと考えます。ここを聴き取らせたいというねらいが分かるものでないと納得できないんですよ。

**長谷川：** 日頃から問題意識をもって情報収集されているんですね。他人が気付かないような微妙な違いまでもこだわりをもって選定されているのですね。

**福井：** 車の中で音源選びをすることもありますが、同じ曲を何回も流すので、夫から「この曲はさっきも聴いたじゃないか」と言われ、「いやいや、歌っている人が違う」というやりとりをするほどです。特に自分で表現できないものは、どの音源を使うかが重要です。

**長谷川：** 同感です。先生が歌わなくてはいけない、お手本を見せなければいけないと思われがちですが、適切な音源を使うことで、生徒たちもあんなに歌えるんだということを実感しました。「これなら私にもできる」とまねをする先生が増えるといいなと思いました。ありがとうございました。

福井洋枝先生と長谷川慎先生

# Information

2019年度に予定されている主な研究大会やイベントをご紹介します。

## 研　究　大　会

## 6月　June

### 21日(金)

**第61回 近畿音楽教育研究大会 兵庫大会**

**神戸文化ホール 他**

〈大会主題〉
心動く瞬間(とき)を求めて

［問い合わせ］
第61回 近畿音楽教育研究大会 兵庫大会 事務局
神戸市立北五葉小学校 校長 髙本 健
〒651-1131 神戸市北区北五葉3-7-1
TEL 078-591-1196／FAX 078-591-1198

## 10月　October

### 11日(金)

**第61回 北海道音楽教育研究大会 旭川上川大会**

**旭川市民文化会館 他**

〈全道共通主題〉
音楽のよさを生かし、豊かな心と確かな力を育む音楽教育

〈旭川上川大会主題〉
音楽のよさや美しさを感じ、音楽と豊かに関わる力を育む音楽教育の創造

［問い合わせ］
第61回北海道音楽教育研究大会旭川上川大会事務局
旭川市立豊岡小学校 校長 鈴木由美子
〒078-8240 旭川市豊岡10条3丁目
TEL 0166-31-0251／FAX 0166-31-0252

### 31日(木)、11月1日(金)

**令和元年度 全日本音楽教育研究会全国大会 東京大会(総合大会)**

**全日本音楽教育研究会発足50周年記念**

**練馬区立練馬文化センター 他**

〈大会主題〉
つなげよう 深めよう 生かそう ♪未来を拓く音楽の学び♪

［問い合わせ］
全日本音楽教育研究会全国大会 東京大会(総合大会)事務局
事務局長 江東区立深川第六中学校 副校長 佐藤隆弘
〒135-0023 東京都江東区平野3-6-13
TEL 03-3642-4868／FAX 03-3820-4706
ta-satou@koto-edu.jp

## 11月　November

### 7日(木)

**第67回 東北音楽教育研究大会 福島大会**

**福島市音楽堂 他**

〈大会主題〉
心にひびく音楽を求めて(仮)

［問い合わせ］
事務局
川俣町立飯坂小学校 教頭 佐々木信晴
〒960-1401 福島県伊達郡川俣町飯坂字南古堂道内5
TEL 024-566-2440／FAX 024-538-2556

### 8日(金)

**第16回 東海北陸小中学校音楽教育研究大会 愛知大会**
**平成31年度 愛知県小中学校音楽教育研究大会 一宮大会**

**－夢織るまちから伝えたい－**
**音楽の力で 結び織りなす 生きる喜び**

**一宮市民会館 一宮市立富士小学校**

〈研究主題〉
音楽のよさを感じ、かかわり合い、
学びの意味や価値に気付く児童・生徒の育成

［問い合わせ］
大会事務局
一宮市立丹陽南小学校 教頭 山田泰司
〒491-0824 愛知県一宮市丹陽町九日市場2666番地
TEL 0586-28-8713／FAX 0586-77-3033
yamada.taiji0fj@city.ichinomiya.aichi.jp

### 15日(金)

**第61回 関東音楽教育研究会 神奈川大会**

**よこすか芸術劇場 他**

〈大会主題〉
音・人・心　ともにつなげる　音楽の力

［問い合わせ］
事務局
横須賀市立鷹取中学校 校長 古敷谷博明
〒237-0066 神奈川県横須賀市湘南鷹取2-30-1
TEL 046-866-3800／FAX 046-866-3906

## 15日(金)

**第50回 中国・四国音楽教育研究大会 徳島大会**
**阿南市文化会館(夢ホール) 他**

〈大会主題〉
つなげよう　深めよう　音楽のよろこび

[問い合わせ]
事務局
阿南市立今津小学校 校長 大西育郎
〒779-1115 徳島県阿南市那賀川町敷地238
TEL 0884-42-0702／FAX 0884-42-1225

## 21日(木)、22日(金)

**第60回 九州音楽教育研究大会 長崎大会**
**第59回 長崎県音楽教育研究大会 佐世保大会**
**アルカスSASEBO 他**

〈大会主題〉
さわやか　いきいき　かんどう　いつまでも　温故創新

[問い合わせ]
事務局
佐世保市立日宇小学校 教諭 平島恭子
〒857-1151 佐世保市日宇町284番地
TEL 0956-31-6904／FAX 0956-31-6919

教育芸術社ホームページでは、この他の研究大会やイベントなどの情報も掲載しています。
https://www.kyogei.co.jp/data_room/event/

— 新作合唱曲による公開講座 —

# Spring Seminar 2020

コンクール自由曲向けの新曲発表会「Spring Seminar 2020」を開催いたします。
同声・女声・混声の各2曲(全6曲)を作曲者、司会者、合唱団と学びます。
セミナー終了後「小学校の部」「中学校の部」「高等学校の部」に分かれて、Nコン課題曲のワンポイントレクチャーも行います。

● 日　時：2020年3月27日(金)
12：45～17：20

会　場：横浜みなとみらいホール
小ホール
〒220-0012
横浜市西区みなとみらい2-3-6

[みなとみらい駅(東急東横線直通／みなとみらい線)
下車、「クイーンズスクエア横浜連絡口」より徒歩3分
桜木町駅(JR京浜東北線・根岸線／横浜市営地下鉄)
下車、動く歩道からランドマークプラザ経由で
クイーンズスクエア1階奥(徒歩12分)]

参加費：5,000円(高校生以下2,000円)
資料・楽譜テキスト代を含む

● 司　会：藤原規生
作曲家：[同声] アベタカヒロ、大熊崇子
[女声] 土田豊貴、横山潤子
[混声] 三宅悠太、木下牧子

● お問い合わせ：
株式会社教育芸術社
スプリングセミナー実行委員会
TEL 03-3957-1168
FAX 03-3957-1740
https://www.kyogei.co.jp/

申込み受付は、2019年12月頃開始予定です。
作曲者、内容などは予告なしに
変更となる場合がございます。
最新情報は、スプリングセミナーの
Facebookでも発信いたします。
https://fb.me/kgspringseminar